

記載学校名	北海道檜山北高等学校
-------	------------

小中高一貫ふるさとキャリア教育推進事業実施計画書（平成29年度） （研究指定校用）

1 基本情報

(1) 高等学校

ア 学校名、校長名、所在地等

学校名	北海道檜山北高等学校	ふりがな 校長名	まるやま ひろまさ 丸山 博正
連絡先	(電話) 0137-84-5331 (FAX) 0137-84-5333 (mail) k-nakaji@hokkaido-c.ed.jp		

イ 生徒数 (H29. 4. 1 現在)

学科名	課程	第1学年		第2学年		第3学年		計	
		生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数
総合学科	全	94	3	87	3	88	3	269	9
計		94	3	87	3	88	3	269	9

(2) 中学校

ア 学校名、校長名、所在地等

学校名	せたな町立北檜山中学校	ふりがな 校長名	いしざわ しゅうすけ 石澤 修介
連絡先	(電話) 0137-84-5345 (FAX) 0137-84-6330 (mail) kita5345@educet.plala.or.jp		

イ 生徒数 (H29. 4. 1 現在)

1 学年		2 学年		3 学年		計	
生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数
30	1	42	1	25(1)	1(1)	97(1)	4(1)

(3) 小学校

ア 学校名、校長名、所在地等

学校名	せたな町立北檜山小学校	ふりがな 校長名	たざわ としゆき 田澤 利行
連絡先	(電話) 0137-84-5424 (FAX) 0137-84-5464 (mail) kita5424@educet.plala.or.jp		

イ 生徒数 (H29. 4. 1 現在)

1 年生		2 年生		3 年生		4 年生		5 年生		6 年生		計	
児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
39(2)	2(1)	25	1	31(1)	1(1)	25	1	29	1	39(1)	1	188(4)	7(2)

2 研究の内容等

(1) 研究主題（テーマ）

故郷への回帰意識“またせたな！ おらがまちが一番！”を育むキャリア教育の充実
～豊かな地域の自然、人的資源を活かし、せたなから「海の幸、山の幸にこだわる日本一」の
人材育成を目指して～

(2) 前年度の研究における課題等

- ① 小・中・高 12 年間のキャリア教育全体計画を作成し、12 年間で身に付けさせたい資質・能力等を明確にすることができたが、評価規準や評価方法等について設定するまでには至っていない。
- ② 檜山北部を支える児童生徒のキャリア学習をどのようにつなぎ、積み上げて行くべきかについて、さらに検討を進めていく必要がある。

(3) 課題解決に向けた取組

全 体	<ol style="list-style-type: none"> ① 次年度以降も小・中・高連携による専門委員会を定期的に関催し、現状認識と今後の方向性を見据えた取組について微調整を図りながら本事業を推進していく必要がある。 ② 3年間の取組を総合した評価を行うとともに、実施したそれぞれの取組の評価規準や評価方法等について検討する必要がある。 ③ 本事業を地域の活動として位置づけ、檜山北部の児童生徒を長期的展望に立って育てる観点を残して次の取組に繋げていかなければならない。
高 校	<ol style="list-style-type: none"> ① 3年間の取組を総括するとともに、評価規準や評価方法等を検討し提案する。 ② 他の小・中学校や地域に出向き、本事業における取組成果を地域に発信する。
中学校	小中高の連携を密にして、12 年間を見通したキャリア教育の実施計画に基づいた中学校で行う職業体験学習の円滑な実践を図る。
小学校	<ol style="list-style-type: none"> ① 3年間の取組を総括するとともに、評価規準や評価方法等を検討し提案する。 ② 本事業における取組の成果を保護者に配信する。

3 実施計画（平成 29 年度実施予定の研究内容と方法）

(1) 「地域ダイスキ！プロジェクト」に関する計画

ア 「キャリア教育の全体計画」について

実施時期	活用、改善・変更に向けた取組内容等に関すること
4 月	<ul style="list-style-type: none"> ○平成 28 年度の取り組みを踏まえ、今年度における各校で策定したキャリア教育全体計画の変更を確認する。 ○各校で変更したキャリア教育全体計画を踏まえ、平成 29 年度の全体計画を再編する。
1 月	<ul style="list-style-type: none"> ○平成 29 年度の実施、取組を評価・検証し、継続性を持たせつつ地域性を生かした取組について考察する。
<p>(期待できる成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○小・中・高各校の策定するキャリア教育全体計画と 12 年間を見通した全体計画との関係性と地域的なつながりを明確にすることができる。 <p>(効果測定)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「地域ダイスキ！プロジェクト」における取組ごとに、取組状況について生徒自身の自己評価と指導者の評価を行い、評価方法を明確にする。 	

イ 「キャリアノート」について

実施時期	活用、改善・変更に向けた取組内容等に関すること
5月 ～ 8月	○小学校「職場見学」、中学校「職場体験」、高校「就業体験（インターンシップ）」それぞれに実施し、昨年度編集したキャリアノートを活用し記録する。 ○キャリアノートをファイリングし、ポートフォリオとして綴り込む。 ○ポートフォリオ形式のキャリアノート活用を広める。
12月	○小・中・高各校で記録したキャリアノートを持ち寄り、取組状況を確認する。 ○現行のキャリアノートの適否を検討、考察する。
1月	○次年度に向けて現行のキャリアノートに変更を加え、より充実したキャリアノートを編集する。
<p>(期待できる成果)</p> <p>○キャリアノートを実際に運用して、取組状況を相互に持ち寄って検証することで、より充実したキャリアノートを再編纂することができる。</p> <p>(効果測定)</p> <p>○児童生徒が記録したキャリアノートの取組状況及び指導者の評価を再編纂の基礎資料とする。</p>	

ウ 「地域の特性」や「教育資源を生かした取組」の実践について

(イベント名：小学校「職場見学」、中学校「職業体験」、高校「就業体験（インターンシップ）」)

実施時期	実施計画や実施内容等に関すること
4月 ～ 5月	○専門委員会、推進委員会を開催し、今年度のキャリア教育全体計画今年度の取組を確認する。 ○専門委員会、推進委員会の協議内容を地域未来づくり会議に報告し、地域未来づくり会議で協議する。 ○地域未来づくり会議の助言を専門委員会、推進委員会において考察する。
5月 ～ 8月	○小学校「職場見学」、中学校「職場体験」、高校「就業体験（インターンシップ）」を計画に従って実施する。 ○各校における取組をキャリアノートに記録する。 小（1年～6年：188名）、中（1年～3年：97名）、高（2年：87名）
9月	○実習報告する生徒を高校から小中学校へ、または中学校から小学校へ派遣し、発表する。 ○複数のブース形式の発表等を実践するとともに、他の小・中学校に高校生が出向き、発表する。 ○「北海道キャリア教育サミット」で小・中・高の児童生徒が3年間の取組成果を発表する。
3月	○キャリア学習発表会へ保護者、小中学校の教職員及び地域住民に案内する。
<p>(期待できる成果)</p> <p>○小中高各校で「仕事」「就労」に関する体験的な活動に取り組み、成長段階に応じた体験記録を残す。自分史を振り返ることで自らの成長を実感し、将来的な展望等に対して確固たる礎を形成することができる。</p> <p>○中高生が小学生及び中学生に発表することで、小中学生にキャリアガイダンスとなるとともに、発表をする中高生にとっては、取組へのコアを確立することができる。</p> <p>○小中高各校での取組を教職員が相互に確認することで、キャリア教育の理念を共有し、実践</p>	

につなげることができる。

(効果測定)

- キャリアノートの記録、受け入れ企業等からの評価、実習報告会・学習発表会におけるアンケート集計結果

エ 地域人材等を活用した講師による「講演会」の開催について

実施時期	実施計画や実施内容等に関すること
4月	○講演会の内容や講師等の検討を行う。
9月	(内容)『卒業生講話』地域で働く本校卒業生に講演会を依頼する。世代の違う講師を数名招き、職業観・勤労観、またこの地域の特性について話を聞く機会とする。 (講師)未定 (参加者)未定
(期待できる成果)	
○1年次は職業及び就業について理解し自己理解へつなげる。2年次は自己理解を深め、地域とのつながりを理解し、北海道、日本へ視野を広げる。	
(効果測定)	
○1年次は職場見学年次発表、2年次は地域巡検と地域巡検のまとめにおける記述により評価・検証する。	

オ 上記以外の地域の特性や教育資源を生かした取組について

実施時期	実施計画や実施内容等に関すること
月	○ 【対象の児童生徒・その他の参加者等】
月	○
(期待できる成果)	
(効果測定)	

(2)「子どもダイスキ！プロジェクト」に関する計画

ア 家庭や子育てに関する「座談会」の開催について

実施時期	実施計画や実施内容等に関すること
4月	○「座談会」実施内容、事前準備の検討を行う。 ○せたな町保健福祉課への協力依頼、小中学校及び町教委と連携する。
6月	(内容)せたな町在住の乳幼児の親子とのふれあい体験を実施する。 (講師)せたな町保健福祉課 保健師 (参加者)「生活と福祉」選択者 15名。せたな・今金両町の小中学校教職員及び町教委、保護者に案内する。
(期待できる成果)	
○実際に子育て中の親子とふれあい、意見交流することを通して、地域で子育てをする現状やその課題を知り、将来的なライフプランや子どもとの関わりについて具体的なビジョンを持ち、社会人としての資質を育む。	
(効果測定)	

○実施前後にレポート作成を行い、実施前と実施後の意識の変化について考察する。

イ 次代の親づくりのための出前授業を生かした「テーマ学習」の実施について

実施時期	実施計画や実施内容等に関すること
4月	○出前授業の内容や講師等の検討を行う。
10月～ 12月	(内容) 保健師による性に関する内容をテーマに「いのちの教室(仮名)」実施する。 (講師) せたな町保健福祉課 保健師 (参加者) 「家庭基礎」1年次 94名。本校生徒の保護者、せたな・今金両町の小中学校保護者、教職員及び町教委に案内する。
(期待できる成果) ○妊娠・出産のしくみを理解し将来のライフプランを考える機会とするとともに、いのちの大切さを学び、自己の健康や他者とのかかわりに責任ある行動ができる態度を養う。	
(効果測定) ○実施後、授業内容を踏まえてライフプラン及びレポートを作成し、評価する。	

ウ 「家庭科」副読本の活用について

実施時期	対象学年	教科・科目	単元
11～12月	1年次	家庭基礎	2章 子どもとかわる
副読本を活用した学習内容			
○子どもの特徴や発達段階を知り、どのように子ども関わればよいかを知る。 ○将来の親として、地域の人間として子どもと関わる上での役割について考える。			
(期待できる成果) ○少子化で乳幼児と関わる機会が少ない現状から、社会生活における異世代関係を気付く上で必要な基本的な知識を身に付けることができる。			
(効果測定) ○取組状況について生徒自身の自己評価と指導者の評価を行う。			

エ 上記以外の家庭や子育てについて理解を深める取組について

実施時期	「平成29年度次代の親づくりのための教育－出前授業－」
9月 ～ 12月	○未定 別紙プリント参照 【本校生徒対象・その他の参加者等】
(期待できる成果) ○結婚して家庭を築くことの意義や出産という新たな命が誕生することの素晴らしさを知る。 ○妊娠・出産に関する正しい知識を身に付け、夫婦がともに協力して子育てをすることの喜びを理解する。	
○今後の生き方(ライフプラン)を考察すること機会となる。	
(効果測定) ○記述式アンケート調査により生徒の達成度を測る。	

4 その他特記すべき事項

(全 体)	特になし
(高 校)	特になし
(中学校)	特になし
(小学校)	特になし

5 その他提出が必要な書類等**(1) 校内体制 高校、中学校、小学校**

- ・平成 27 年度に提出した校内体制（図式化）に変更がある場合のみ添付してください。
変更なし

(2) 研究のイメージ図（ポンチ絵）

- ・平成 27 年度に提出したものから変更がある場合のみ添付してください。（A 4 判 1 枚で）
変更なし